



世界農業遺産

平成25年5月認定

しいたけ栽培のほだ木に利用するクヌギは、約15年のサイクルで伐採・萌芽・再生を繰り返し、クヌギ林が維持されます。クヌギ林は雨水を蓄え、そこから有機物を含んだ湧水をいくつものため池に溜めて、農業に利用します。



地域内には、15世紀からほとんどそのままの姿で現在に伝わる農村景観もある（左）。シチトウイは、い草より強靱で耐久性に優れた畳表の材料で、現在は国東半島地域が国内唯一の産地（右）。



複数のため池をつないで農業用水を供給するシステムは、貴重な水を効率的に利用する市の少ない半島ならではの知恵から生まれたもの。

育まれる生物多様性・文化



世界農業遺産認定による効果

※R6.3月現在

次世代への継承

小学校、中学校、高等学校で世界農業遺産に関する学習を実施

- 小学校：世界農業遺産を題材とした教材本（マンガ）を使用した授業を実施（R5年度 認定地域内全59校）
- 小学校：世界農業遺産を題材とした作文コンクールを実施（R5年度 応募点数21校・141点）
- 中学校：農林水産業従事者を講師とした出前授業を実施（R5年度 認定地域内全23校）
- 高等学校：農業者等に聞き取りを行い記録を残す、「聞き書き」を実施（R5年度 県内11校）

✓ 生まれ育った地域への理解と誇りが醸成されている。

✓ 聞き書きに参加した高校生が地元で就農を目指しているなど、農業を担う次世代の育成につながっている。



地域の元気づくり

魅力発信

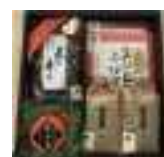
- 多様な媒体による世界農業遺産の魅力発信
- 他の認定地域と連携した魅力の発信

交流人口の拡大

- 地域資源の発掘と磨き上げ
- 受入体制の整備
- 地域の自主的な活動への支援

ブランド化

- 世界農業遺産地域ブランド認証品を4品目設定（乾しいたけ、シチトウイ加工品、米、茶の湯炭）
- シンボルマークを貼付した世界農業遺産応援商品の拡大（61企業・団体282商品）



✓ 認知度向上による、来訪者の増加や地域商品の販売促進

✓ 地域の自主的な活動の広がり